報道発表資料

令和７年１月２３日
京都市文化市民局
文化芸術都市推進室
文化芸術企画課　℡:075-222-3119

京都市芸術文化特別奨励制度 令和７年度奨励者の決定

京都市では、芸術文化の担い手を育成することにより、新たな芸術文化の創造を促進し、京都の芸術文化の振興を図ることを目的として、これから大きく羽ばたこうとする若い芸術家（※）の方々を奨励する「京都市芸術文化特別奨励制度」を平成１２年度から実施しています。

この度、令和７年度中の活動を支援する奨励者が決定しました。

※京都市在住または活動拠点が本市の方

１　令和７年度京都市芸術文化特別奨励者　竹本　碩太夫　氏【文楽／29 歳／京都市在住】

本市から奨励金（300 万円）を交付します。

【奨励者プロフィール】

平成７年生まれ、北海道札幌市出身。私立北海高等学校卒業後、国立劇場第２７期文楽研修生となる。平成２９年４月に竹本千歳太夫に入門、竹本碩太夫と名乗る。同年７月に国立文楽劇場にて初舞台。

人形浄瑠璃「文楽」における物語の語り手「太夫」として、大阪の国立文楽劇場を拠点に活動中。今回の奨励を受け、令和７年度においては、自主公演の企画・開催を通じた若手の成長機会の創出、若年層が文楽（義太夫節）に触れる機会の創出などを目指すとともに、先人から受け継いだ舞台道具の修繕、舞台衣装の復元などに取り組む。

令和２年度、４年度に文楽協会賞 太夫の部（公益財団法人文楽協会）を受賞。

撮影：野口英一

２　令和７年度奨励者に係る申請件数及び審査講評

（１）　申請件数４３件

（ア）分野別

分野	件数（昨年）
舞台	１５（１６）
音楽	１３（２２）
造形	２３（３７）

※　分野が重複している申請があるため合計数は申請件数と一致しない。

（イ）年代別

分野	件数（昨年）
１０代	１（１）
２０代	１２（１３）
３０代	２０（３２）
４０代	４（１１）
５０代以上	６（６）
計	*４３（６３）*

※　最年少１２歳、最高齢５５歳

（２）　京都市芸術文化特別奨励制度審査委員会　講評

今年度の応募件数は４３件（舞台系１５件、音楽１３件、造形２３件）であり、専門委員会を経て選出された５名を対象にプレゼンテーション審査を行った。

プレゼンテーション審査では、専門分野の異なる審査員による合議で決定されるた

め、各々の専門性に加えて、自身の活動に対する認識や目指すところに重点を置いたさまざまな質問がなされ、厳正な審査の結果、全員一致で竹本碩太夫氏に決定した。

他の候補者もそれぞれに持ち味があり、その将来性の高さに疑うべきところはないが、竹本碩太夫氏の実力および将来的な展望には特筆すべきものがあった。

竹本碩太夫氏は、文楽界の若手技芸員として、着実に実績を積み重ね、自らの研鑽のための勉強会や自主公演を行うなど、積極的に活動を行っている。また自らの活動を通して、京都の伝統工芸、特に衣装や見台等の修復、復元、研究を目指し、周囲の関係者にも目を向けた活動を計画している点は、高く評価できる。

国立劇場の閉場や、技芸員の減少等、厳しい環境の中でも、高い志をもって芸の追求に取り組む姿勢には、今後を期待させるものが大いにあった。さらなる飛躍を後押ししたい。

審査委員長　建畠哲

３　令和７年度　京都市芸術文化特別奨励制度審査委員会委員（敬称略）

◎委員長　５０音順

氏　名	役　職　等
赤松　玉女	京都市立芸術大学　学長
小崎　哲哉	文筆家、アートプロデューサー
亀岡　典子	産経新聞大阪本社編集局文化部　特別客員記者
小谷　眞由美	株式会社ユーシン精機　名誉会長
高畠　整子	音楽プロデューサー、ライター
◎建畠　哲	京都芸術センター　館長
福本　潮子	美術家
松下　悦子	同志社女子大学学芸学部音楽学科　教授
森山　直人	多摩美術大学美術学部演劇舞踊デザイン学科　教授
山本　ひとみ	京都市文化市民局長（京都市文化芸術政策監　兼職）

４　参考

京都市芸術文化特別奨励者一覧

奨励年度	奨励者	分野
H13 年度	奥村　泰彦	舞台美術
	河原崎　貴光	メディアアート
	坂本　公成	現代舞踊
	文楽若手義太夫節の会	浄瑠璃
	松岡　万希	声楽
H14 年度	井上　隆平	クラシック・ヴァイオリン
	ソバット・シアター	映像・美術造形
	髙橋　匡太	現代美術・インスタレーション
H15 年度	内田　淳子	演劇
	上森　祥平	クラシック・チェロ
	Mitch	ジャズ・トランペット
H16 年度	砂連尾　理＋寺田　みさこ	現代舞踊
H17 年度	名和　晃平	現代美術
	吉本　有輝子	舞台照明デザイン

H18 年度	髙谷　公子	声楽
	宮永　愛子	現代美術
H19 年度	英　裕	洋画
H20 年度	三浦　基	舞台演出
	横山　佳世子	邦楽
H21 年度	筒井　加寿子	演劇
	内藤　裕子	ピアノ
H22 年度	あごう　さとし	劇作･舞台演出
	曽根　知	コンテンポラリーダンス･バレエ
H23 年度	加藤　文枝	クラシック・チェロ
	宮永　亮	映像表現
H24 年度	中嶋　俊晴	声楽・カウンターテナー
	Hyon Gyon	絵画
H25 年度	小林　達夫	映画
	JCMR KYOTO	現代音楽の研究・企画
H26 年度	中川　日出鷹	現代音楽・ファゴット
	森田　玲・林　宗一郎	民俗芸能・能楽
H27 年度	德山　拓一	現代美術を中心としたキュレーション
	久門 剛史	現代美術
H28 年度	谷中　佑輔	現代美術・彫刻
H28 年度	林　美音子	地歌演奏・柳川三味線
H29 年度	木ノ下　裕一	演劇・古典芸能の研究
	高尾　長良	小説
H30 年度	久保　ガエタン	現代美術
	Hyslom	現代美術・パフォーマンスアート
R 元年度	空間現代	現代音楽
	村松　稔之	声楽・カウンターテナー
R2 年度	西條　茜	陶芸・現代美術
	tuQmo	コンテンポラリー・サーカス
R4 年度	ゴーダ企画	舞踊・パフォーミングアート
R5 年度	黒川　岳	現代美術
R6 年度	中川　裕貴	チェロ
R7 年度	竹本　碩太夫	文楽